編集後記

編集委員2期6年、何とか無事に終えることができてホッとしております。特に総説と書評の差配では、ご検討いただいた先生方、ご寄稿いただいた先生方に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。また、編集委員にご推薦いただいた元編集長の奥谷文乃先生、前編集長の横須賀誠先生、現編集長の重村憲徳先生、そして編集委員の先生方にも大変お世話になりました。どうもありがとうございました。

9月に開催された盛岡大会では、嬉しい再会がありました。故尼川大作先生の下でともに学んだバングラデシュ出身の半年先輩と、約25年ぶりに時間を共にする機会を得ました。旦那様ともども岩手大の教員で、音頭を取ってくださったのは今号の特集オーガナイザー・尾﨑まみこ先生。彩り豊かな食事とともにあっという間の2時間でした。その勢いで翌日は半年先輩と2人で大学近くのじゃじゃ麺屋さんへ。そう言えば毎日こうして話をしながらお互い励ましながら電気生理のセットに黙々と向かったな、とノスタルジーを堪能しました。くしくもつい先日、新天地で来年度から卒研生を受け入れてほしいとの依頼が届きました。盛岡での時間はきっと尼川先生からの餞ですよね。本当にお世話になりました。どうもありがとうございました。先生からいただいたご恩は次の世代に繋いでまいります。今後も見守っていただければ幸いです。

（村田芳博）

2024年1月より編集委員を務めさせていただき、あっという間の3年間でした。編集委員の先生方には、さまざまな場面で大変お世話になりました。特に編集委員長の重村憲徳先生には、多くのことを教えていただき、また折々にフォローしていただきました。心より感謝申し上げます。

紙面では主に「海外だより」を担当させていただきました。ご寄稿いただいた先生方には、この場を借りて改めてお礼申し上げます。また今回、通常の「海外だより」とは少し趣の異なる「PIマップ」について紹介する機会をいただきました。この企画を快く認めてくださった重村先生、そして取材をはじめ多大なご協力をいただいた室田総領事をはじめとする在ロサンゼルス日本国総領事館の皆様にも、心より感謝いたします。

さらに、今号の特集オーガナイザーをお引き受けくださった尾崎まみこ先生にも、厚くお礼申し上げます。ご多忙の中、企画から取りまとめまでご尽力いただき、このような素晴らしい特集に仕上げてくださいました。ご執筆いただいた皆様にも、改めて感謝申し上げます。

編集委員としての3年間を振り返ると、「海外だより」を通して、海外で研究を続けるさまざまな方々の経験や思いを日本の皆様にお届けする機会に恵まれたことを、とてもありがたく感じています。そして、自分でも意外だったのですが、誰かの声を別の誰かに届けることを、私は思っていた以上に好きなのだという発見もありました。これからは一読者として、毎号どのような記事に出会えるのか楽しみにしています。

（山中（垣）紗智子）